

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 超低侵襲電子デバイス技術によるデジタル生体エンジニアリング
2. 研究代表者： 竹原 宏明（東京大学 大学院工学系研究科 講師）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題では、生体内発電により外部からの電力供給を必要としないバイオ燃料電池を利用した医療機器の開発を目指す、非常にユニークな研究に挑戦している。フェーズ1では、プロセス・電池技術等の難しい問題に直面しているが、研究自体は進捗しており、概ね順調である。フェーズ2では、要素研究だけにとどまらず、医学系研究者とさらなる協働研究を進め、実験動物を用いたバイオ燃料電池の実証ができる状態まで到達することに期待する。

以上